

波動関数の具体的な形

水素原子の波動関数の具体的な形を記しておく。テキスト p.100 の角度部分の (1.7) 式と動径部分の (1.13) 式を具体的に計算すればよい。

まず (1.7) 式の $Y(\theta, \phi)$ の方は, Legendre 関数を展開すればよい。 $l = 3$ までの具体的な関数形を以下に記す。 ($l = 2$ までは, テキスト P.47 の (8.31~8.35) と同じである。 Y は l および m によって関数形が変わるので, それを Y の添字として記されている。 $Y_{2,0}$ は $l = 2, m = 0$, すなわち dz 軌道の角度部分の関数である)

$$Y_{0,0} = \sqrt{\frac{1}{4\pi}}$$

$$Y_{1,0} = \sqrt{\frac{3}{4\pi}} \cos \theta$$

$$Y_{1,\pm 1} = \sqrt{\frac{3}{8\pi}} \sin \theta e^{\pm i\phi}$$

$$Y_{2,0} = \sqrt{\frac{5}{16\pi}} (3 \cos^2 \theta - 1)$$

$$Y_{2,\pm 1} = \sqrt{\frac{15}{8\pi}} \sin \theta \cos \theta e^{\pm i\phi}$$

$$Y_{2,\pm 2} = \sqrt{\frac{15}{32\pi}} \sin^2 \theta e^{\pm 2i\phi}$$

$$Y_{3,0} = \sqrt{\frac{7}{16\pi}} (5 \cos^3 \theta - 3 \cos \theta)$$

$$Y_{3,\pm 1} = \sqrt{\frac{21}{64\pi}} \sin \theta (5 \cos^2 \theta - 1) e^{\pm i\phi}$$

$$Y_{3,\pm 2} = \sqrt{\frac{105}{32\pi}} \sin^2 \theta \cos \theta e^{\pm 2i\phi}$$

$$Y_{3,\pm 3} = \sqrt{\frac{35}{64\pi}} \sin^3 \theta e^{\pm 3i\phi}$$

また, (1.33) 式の R も同様に, n, l に依存するので, $R_{n,l}(r)$ として表すとすると, $n = 1 \sim 4$ の場合, 次のようになる。ただし, $\rho = r/a_0$ である。

$$R_{1,0} = 2 \left(\frac{1}{a_0} \right)^{\frac{3}{2}} e^{-\rho}$$

$$R_{2,0} = \frac{1}{2\sqrt{2}} \left(\frac{1}{a_0} \right)^{\frac{3}{2}} (2 - \rho) e^{-\rho/2}$$

$$R_{2,1} = \frac{1}{2\sqrt{6}} \left(\frac{1}{a_0} \right)^{\frac{3}{2}} \rho e^{-\rho/2}$$

$$R_{3,0} = \frac{2}{81\sqrt{3}} \left(\frac{1}{a_0} \right)^{\frac{3}{2}} (27 - 18\rho + 2\rho^2) e^{-\rho/3}$$

$$R_{3,1} = \frac{4}{81\sqrt{6}} \left(\frac{1}{a_0} \right)^{\frac{3}{2}} (6 - \rho) \rho e^{-\rho/3}$$

$$R_{3,2} = \frac{4}{81\sqrt{30}} \left(\frac{1}{a_0} \right)^{\frac{3}{2}} \rho^2 e^{-\rho/3}$$

$$R_{4,0} = \frac{1}{768} \left(\frac{1}{a_0} \right)^{\frac{3}{2}} (192 - 144\rho + 24\rho^2 - \rho^3) e^{-\rho/4}$$

$$R_{4,1} = \frac{1}{256\sqrt{15}} \left(\frac{1}{a_0} \right)^{\frac{3}{2}} (80 - 20\rho + \rho^2) \rho e^{-\rho/4}$$

$$R_{4,2} = \frac{1}{768\sqrt{5}} \left(\frac{1}{a_0} \right)^{\frac{3}{2}} (12 - \rho) \rho^2 e^{-\rho/4}$$

$$R_{4,3} = \frac{1}{768\sqrt{35}} \left(\frac{1}{a_0} \right)^{\frac{3}{2}} \rho^3 e^{-\rho/4}$$

さて, まず動径関数 $R_{n,l}$ は $n - 1$ 次の多項式を含んでいることがわかる。したがって, $R_{n,l} = 0$ を満たす距離 $r (= a_0\rho)$ が $n - 1$ 箇所あることになる。この r が 0 以外で $R_{n,l} = 0$ となるところが動径方向の節である。 l が 1 増えるごとに多項式が ρ でくれるようになるので, 節の数は減少し, とりうる最大の l ($l = n - 1$) のときに動径方向の節はなくなる。したがって, $R_{n,l}$ の節の数は $n - l - 1$ 個ということになる。

次に, 角度部分の関数と, 化学結合でおなじみの p 軌道や d 軌道の関係はテキストの p.103 から 105 にかけて書いてある説明をよく読むこと。

また, 波動関数 $\Psi_{n,m,l} = R_{n,l} Y_{l,m}$ の 2 乗が電子の存在確率密度に対応する。つまり, 規格化条件は

$$\int_0^\infty dr \int_0^\pi d\theta \int_0^{2\pi} d\phi \quad r^2 \sin \theta |\Psi_{n,m,l}|^2 = 1$$

となる。したがって, R や Y の規格化条件は,

$$\int_0^\infty r^2 |R_{n,l}(r)|^2 dr = 1$$

$$\int_0^\pi \int_0^{2\pi} \sin \theta |Y_{l,m}(\theta, \phi)|^2 d\theta d\phi = 1$$

となる。さらに, $\rho = r/a_0$ なので, R の規格化条件を ρ で表せば,

$$\int_0^\infty a_0^3 \rho^2 |R_{n,l}(\rho)|^2 d\rho = 1$$

となることに注意すること。それぞれの関数について, $\int_0^\infty x^n e^{-\alpha x} dx = n!/\alpha^{n+1}$ などを用いて, 規格化係数を確かめてみよ!